◉文祿元年天草版　吉利支丹教義の研究

橋本　進吉著

本書は東洋文庫所藏に係る文祿元年天草耶蘇會學林出版の羅馬字綴りの Doctrina Christan を新たに國字に書改めたものを本體とし、前にその原本の解說と考證を爲し、後にその用語に關する研究を附したもので、猶ほ別冊として原本全部の實大玻璃版複製本を添へてある。其内、用語に關する研究は著者專攻の國語學の方面から詳細且つ興味ある考察がなされてあつて、言語學研究者、吉利支丹研究者等に裨益を與へること鮮少でない。(菊版假、本編三五二頁、東京東洋文庫發行、價十二圓)

◉新校群書類從

群書類從が多數の且つ貴重なる古文獻を網羅して吾人に提供し學界に多大の寄與を爲してゐる事は今更喋々を要せぬ事であつて、從來刊行された事も數回に及び、改訂增補された所もあつたが、未だ完本とは稱することを得ないものである。之に依つて此度内外書籍株式會社は上田萬年、和田萬吉、藤井乙男、三浦周行、新村出、幸田成行、辻善之助、藤村作の諸博士を監修、三上參次、黑板勝美の二博士を顧問に仰ぎ、多數の學者に編輯を依頼して幾多の善本を集めて嚴密に校訂し且つ簡明なる解題及び詳細なる索引を附して利用に便にし、新校群書類從と題して刊行することゝなつたのは眞に學界の慶事と云はねばならぬ。去る五月第一回配本を爲し、以後每月一册づゝ刊行して二十四ヶ月を以て完結する豫定である(菊版、特製六圓、上製五圓、東京内外書籍株式會社發行)〔以上松野〕

◉研究小錄

文學博士　内藤虎次郎著

本書は著者自ら一名を支那學叢考と命名せられてある通り全卷何れも支那學關係の論文のみで書名は甚だ謙遜せられてはあるが、内容は永く識者に讀まるべき名篇である。收むる所は主として雜誌「支那學」に嘗て揭載せられし論文札記にして、之に他の雜誌、單行本等に載せたる